

地域おこし協力隊通信



里山観察会で説明をする山本さん（左）



Profile

山本翔太さん

2001年静岡県生まれ。育ちは福岡県北九州市。静岡県、福岡県、山形県、福島県を経て、一戸町へ。大学で考古学を専攻。考古学と樹木の両方に興味があり、令和7年4月着任。

地域おこし協力隊の山本さんが日頃、どのような活動をしているか紹介します。

学びの場の里山づくり

縄文里山づくり活動を担当しています。縄文時代の植物利用に基づく里山の整備を、博物館裏の縄文の森地区を中心に行っています。代表的なもので言えば、縄文時代の建築材に好んで使用されたクリ、遺跡から大量に出土しているトチノキなどの保護・育成、実のなるヤマグワやモミジイチゴなども育てています。

また、数種類の植物から繊維を採ったり、トチノキのアク抜きなど、縄文時代の植物利用に関わる技術を自身で体験して、来館者や地元の人々へ提供する体験活動の企画や、町内外の人向けに里山観察会や町内の文化財の魅力を伝える活動も行っています。これらの活動を通して、学びの場としての里山づくりを目指しています。



縄文の森で育ったモミジイチゴ

昨年の冬頃から縄文の森地区で育てていたクリの実生が野生動物によって根元から掘りかえされていました。原因を探るため、各所にトレイルカメラを設置して野生動物の観察を始めました。すると縄文の森にはニホンジカやイノシシ、キツネやタヌキなどさまざまな動物が訪れていました。御所野遺跡からも焼骨としてシカやイノシシの骨が出土していて、縄文時代の人々にとって野生動物は狩猟の対象であり、生活を支える森の恵みであったと考えられます。

カメラの記録では、令和8年6月までに10種類以上の哺乳類を確認しています。クリに対する被害はイノシシによるものと現時点では考えており、今後被害が拡大するようであれば、対策を講じる必要があります。



カメラに写った2頭のタヌキ

文化財を町の力に

一戸町の魅力は文化財だと思えます。初めて一戸町に来た時、駅に掲げられた『縄文の里』の文字が強く印象に残っています。御所野遺跡のほかにも町内には事前遺跡や上野遺跡などの数多くの縄文遺跡や弥生時代から古代、中世の遺跡といった学術的に価値あるものが多く存在します。過去から現在まで一戸町には文化財を大切にする風土があると思います。それらを調査研究、保存活用してきた先人たちの志や思いを受け継ぎ、町の強みとして生かしていく活動をしていきます。

SNS などの発信情報



Instagram



町内の縄文遺跡を紹介した展示

地域おこし協力隊の詳細は町ホームページをご覧ください。



ホームページ